令和７年度　障害福祉に関するアンケート調査 概要報告

１．調査の目的

・障害者の心身の状況、生活の状況やサービスの利用意向等を把握する

・第７次佐倉市障害者計画の中間見直し及び第８期佐倉市障害福祉計画の策定にあたり基礎データを収集する

２．調査対象者と調査方法

（１）調査対象者

・身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の所持者

・自立支援医療（精神通院）の利用者

（２）調査方法

①抽出調査（層出抽出法）；各障害者手帳の所持者を母数とし、18歳未満と18歳以上の階層に区分し無作為で抽出

②調査対象者数；2,500人（18歳未満122人、18歳以上2,378人）

３．調査期日　　令和７年11月21日（金）～12月19日（金）

４．調査方法　　対象者へ調査票を郵送

（回答方法）郵送またはWebによる回答

５．回答数　　回答総数　1,158（46.3%）

うち郵送回答948（81.9%）

Web回答210（18.1%）

有効回答　1,105（44.2%）

無効回答　　53（※集計不可のもの）

（回答内訳）

	人数（※）	構成比	調査対象	有効回答数	回答率
身体障害	4,918	50.2%	1,256	618	49.2%
知的障害	1,196	12.2%	305	169	55.4%
精神障害	2,186	22.3%	558	205	36.7%
自立支援（精神通院）のみ	1,492	15.2%	381	113	29.7%
合　計	9,792	100%	2,500	1,105	44.2%

６．分析結果

集計結果の分析により、以下の内容がわかった。

・「希望する暮らしを送るために必要な支援」については、ほとんどの世代において、「経済的な負担の軽減」を求める声が多かった。

・「福祉サービスに関する情報源」について、４０から６０歳代の方については、市が発信する媒体（広報、パンフレット、市役所）を情報源とする方が多かった。

・「外出する際に困ること」について、主に６０歳代以上の方は「移動経路や交通機関」に関する困りごとが多かった。

・「災害時に困ることや不安なこと」については、「避難場所での生活」に関する不安が多かった。

・「障害のある方が働くために必要だと思うこと」については、４０歳代以下の方では「障害者理解」に関すること、５０歳代以上の方では「勤務形態（勤務時間）」に関することが多かった。

・「日頃、差別や偏見、疎外感を感じることがあるか」については、５０歳代以下は「ときどき感じる」、６０歳代以上は「まったく感じたことはない」が最も多い回答となっており、世代によって分かれる傾向が見られた。

・「障害理解の促進」については、３年前と比べて「進んでいると感じた事はほとんどない」という回答が最も多かった。

・「障害のある人にとって暮らしやすいまちづくりのために必要だと思うこと」については、「いつでも気軽に相談できる相談窓口の充実」という回答が最も多かった。

７．主な意見

アンケートの自由記入欄には、以下のような意見が寄せられた。

・医療費の限度額が年々上がっているので負担を減らしていただきたい

・知的障害のある者にとって、市役所等の申請書等が複雑でわかりにくい。簡単にならないでしょうか。

・公共交通機関のアナウンスを聞き取りやすいように、ゆっくり話してほしい。災害時など、なにがあったのかわからない。早口はやめてほしい。

・聴覚障害者に対して、交通便の情報が足りない。

・私の希望する職種に障害者の雇用はほとんどありません。障害のある者に理解が深まり、雇用する企業が増えたら、両方の悩みが解決するのに、と思います。働く意欲のある障害者はたくさんいると思うのです。

・精神障害者が入居できるグループホームで日中サービス支援型施設の増設へのご支援のお願いです。

・親亡き後が不安です。入所施設を増やしてほしいです。

・目に見えない病や障害をどう理解してもらったらいいかが何年たってもわからない、家族でさえよくはわかっていない。